

主编 汤重南

日俄战争史料

15

线装书局

主编 汤重南

(第十五册)

日俄战争史料

綫装書局

第十五册

第十二卷 路透電報 早稻田大學 自明治三十七年五月至七月……………一

第十三卷 路透電報 早稻田大學 自明治三十七年八月至十月……………二七三

路透電報

第十二卷

早稻田大學

自明治三十七年五月至七月

自明治三十七年
五月至七月 路透電報

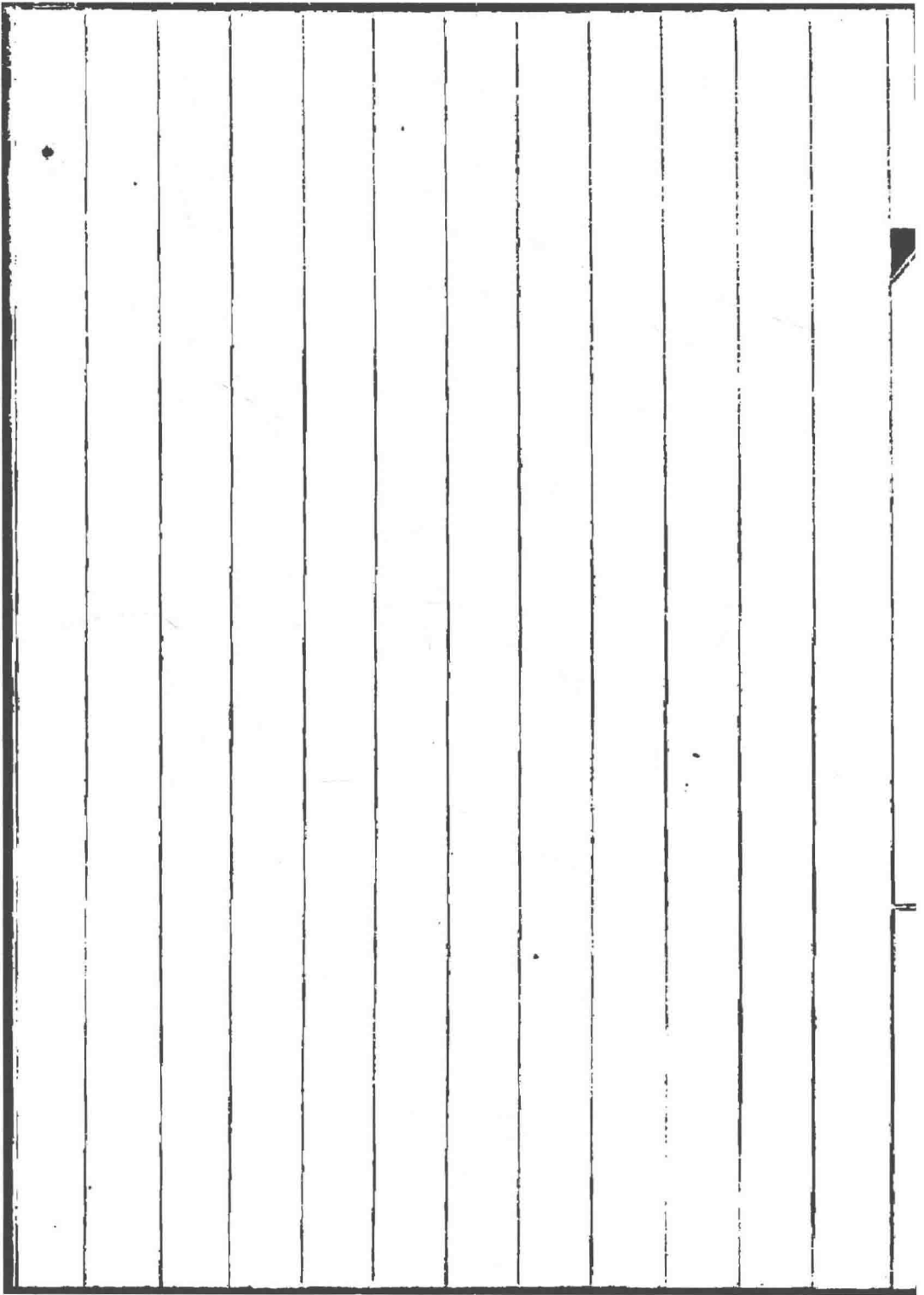
日露戰役史料 第十二卷

早稻田大學

明治三十七年五月分

路透電報集

附倫敦特電



四月二十九日

美國皇帝皇后有陛下に愛敬に於て到る處に繞り
て忠實なる歓迎を受けハレチエスウラン、レ
オパーツタウソの鼓馬會に臨みたりたり雲す
るに何等の支吾無く又不平の聲あり

△ 英國ハ在外駐劄の代表者に迎章と慶送して調
停を拒絶し且つ再び日本の奸諂なる不意打ちと
非難しき

四月三十日

露國政府、在外駐劄の代表者、迴章を發遣し
露國の戦争を終結せしめんとする調停に同意
せざるべく又戦後、終結する日露兩國の談判に
對しても其の孰れの國たるを問はず外國の干
渉を承認せざるべき旨を明白に宣告しなす

△聖彼得堡より、の報道、これハ十隻の日本軍艦
及び六隻の水雷艇、昨二十九日浦塩斯遠、現
れんちと

△ 美國新聞紙…一般に金物丸にありし將士の訓
練、勇俠に對し日本を祝ふ

五月一日

華聖頭府より報に據るハ鴨綠江の大戦全勝
日本の勝利に歸したる旨國務省に其報ありた
りと云ふ

セロトルイ博覧会に大統領ルーカスルト氏
に依りて正式に開場されたる大統領ハ華聖頭
府にありて電報に酬は之に依りて一切の機械

に發動と共に又纏り小なる旗幟を解き放ち
之と共に無數の會衆一時に国歌を奏す

米國來年度の歲入は一億四千八十万磅ニ一
歲出は一億五千六百三十萬磅なり

ルーパー氏マルセルに看せし其伊國旅行ハ
政治上文藝上共に甚しき成效なり

五月二月

瑞典丁林の二國ハ中立宣言書を發して交戦國

軍艦の之が軍港又、其一定海面に入るを禁せ
り此等の海域、布設水雷に依りて保護さる

セントルイス博覧会の規模、頗る廣大なり其
地域千二百四十エーカーに擴ぶる五十箇國の
外國政府之は賛同し内十九箇國、其特別館を
建設せり蓋し曾て世界に僅かたるものの最
大なるものの一として其規模に力加つ博覧会とし
優れ、文官海陸軍人外國商人等主合し上座を
し開場式舉行す小なり

▲ 巴里新聞紙、鴨綠江陸戦：國一唯を露國の公

報をうみ掲載し居たり但し専門家の重なる投
書家等皆露兵の具遼陽退却に於て甚しき
苦難に接せざるを豫想しクロバトヤン將軍亦
遼陽を放棄せしことあるべしと爲す

△タムスは論じて曰く日本軍ニ一て今直に遼
東半島に上陸せし其防禦陣地を占領せし
至るまで露國の之に抵抗せし力の有せざ
るべしと

ラレグラフ又曰く露國の其形勢を計算せし
誤りたりと

スタンダード曰く之は勝利の士氣に及ばず影

響ハ其戦果の價値ニハ超越をヘリナリト

五月一日度露國公報ニ日本砲兵の著ク優勢
ナリト云ル其受けたる損害ハ甚カニナリト
之承認セサズナリワケ將軍ハ九連城の陣地を
撤去シテ鳳凰城の第二陣地ニ退却セラルベシ
ラガヨニ至ルリト云ヘリ

五月三日

△奉天より之報ニ依ルハ露國陸軍總指揮官クロ
ハトキン將軍ハ兵二萬ヲ率ル達陽ニ進ミテ鳳

圍城ニ向け進軍せんとす

△ 露國考謀本部、九連城の戦を以て全然重大と
うする。分營兵の戦闘と爲——其退却したる……
ロバトキン將軍の作戰計畫中の一節なりと言
へり

日本の鴨綠江ニ於ける勝利ハ強んと計り可なり
らざる精神上の結果を有する。武力的大偉績ナ
りとして美國亞細大陸ニ於ける第一稱賛せら
るゝ。尤も獨逸の新守隊ハ鴨綠江ニ於ける露軍ハ
少數なりしことと雖も、日本軍を妨害せし外何